



TITLE:

日本一のクラゲ天国田辺湾(32) タコクラゲ

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 日本一のクラゲ天国田辺湾(32) タコクラゲ. 紀伊民報 2011

ISSUE DATE:

2011-09-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/180165>

RIGHT:

© 紀伊民報社

紀伊民報

2011年(平成23年)9月1日 木曜日 第20681号 (14)

タコクラゲ

タコのように8本の足を持つタコクラゲ



タコクラゲは名前が示す通り、あしが8本生えている。傘径は10センチ以上になる。このあしでバランスを取っており、長いあしを全部根元から切ったら、うまく泳げないだろう。

このタコクラゲの仲間がパ

久保田 信

32



ラオのジェリーフィッシュ・レイクにはうじゃうじゃいて、クラゲと一緒に泳げるといって有名だ。ただ、このクラゲにはあしがない。天敵のいない静かな湖で必死に泳ぐ必要がないからだろう。

田辺湾のタコクラゲは今年は8月中旬に出現して既に大きく成長したものもいる。写真の個体は8月17日に撮影した。体色は褐色だが、この色は細胞中に無数の褐虫藻が共生しているからだ。褐虫藻が太陽光を受けて光合成によって栄養をつくってくれる。しかし、褐虫藻が高水温で体内から出てしまうと、地色の白

色になる。太陽がさんさんと当たる季節に出現するのもこの藻に頼っているからだ。

褐虫藻にはクラゲのうんちである窒素化合物と呼吸で出ている二酸化炭素をあげている。すなわち、持ちつ持たれつの共生関係にある。いまだに人間は工場で光合成を再現できないが、タコクラゲにならって、体内に藻も共生させれば食料問題も解決するだろう。

タコクラゲは小さな時、口は体の真ん中に大きく開いているが、成長につれて口は閉じる。その代わりにカリフラワールのような複雑な形の口腕部分に、無数の小さな穴が開く。ここから微小なプランクトンを食べる。口腕の刺胞には毒があり、人によって痛むことがある。

若いポリプは鉢クラゲに共通の単体の小さなもので自然界から発見は難しい。1個体のポリプから1個体のクラゲしかできないので、ほかの鉢クラゲより分身術が劣っている。
(京都大学准教授)